

広島県の金融経済月報

1. 概況

広島県の景気は、緩やかな回復基調にある。

需要項目別に概観すると、設備投資は増加している。公共投資は高水準で推移している。個人消費は緩やかな回復基調にある。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。住宅投資は弱めの動きとなっている。

生産は横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境をみると、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回っている。

先行きの景気は、緩やかな回復が続くことが期待されるが、海外経済の動向や物価動向などが県内の経済金融情勢および回復のペースに与える影響を注視していく必要がある。

2. 実体経済

(1) 最終需要の動向

個人消費は、緩やかな回復基調にある。

百貨店売上高は、横ばい圏内の動きとなっている。スーパー売上高は、物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している。コンビニエンスストア売上高は、緩やかな回復基調にある。ドラッグストア等の売上高は、底堅く推移している。家電販売は、弱めの動きとなっている。乗用車販売は、弱い動きとなっている。旅行取扱額は、回復基調にある。主要観光地への入込客数は、緩やかな増加基調にある。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

設備投資は、増加している。

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 生産の動向

生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

自動車は、横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、一部に弱めの動きがみられている。電気機械は、高水準で推移している。造船は、低水準で推移している。鉄鋼は、横ばい圏内で推移している。

(3) 雇用・所得の動向

雇用・所得環境をみると、全体として緩やかに改善している。

労働需給は、引き締まった状態にある。雇用者所得は、実質ベースでは前年を下回っている一方、名目ベースでは改善している。

(4) 物価の動向

消費者物価（除く生鮮食品、広島市）は、前年を上回っている。

3. 金融

(1) 貸出の動向

県内金融機関の貸出金残高（末残）は、前年を上回っている。貸出金利は、幾分上昇しているが、引き続き低水準で推移している。

(2) 預金の動向

県内金融機関の実質預金残高（末残）は、前年を上回っている。

以 上

本資料はホームページにも掲載しています。

URL <https://www3.boj.or.jp/hiroshima/>

E-mail hiroshima@boj.or.jp